

かきの樹上軟熟果の発生要因と防止対策							
<p>【要約】 <u>かきの果実肥大第Ⅰ期後半からⅡ期（7～8月）に降水量が多く、日照時間が短い年は軟熟果の発生が多くなる。着色開始期に葉面散布肥料MGC-82を散布すると軟熟果発生が抑制され、収穫果実の日持ち性が向上する。</u></p>							
園芸研究所・果樹部・落葉果樹研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	栽 培	対 象	果樹類	分類	普及

【背景・ねらい】

松本早生富有や富有では、年によっては成熟期から収穫期にかけて樹上での軟熟果が多発し、果実品質および収量の低下を来す。軟熟果になるのはヘタスキ果、病害虫被害果、傷果によるものが大部分であるが、発生要因の不明な軟熟果もある。そのため、これらの軟熟果の発生と気象要因との関係を明らかにし、発生防止対策を確立する。

【成果の内容・特徴】

- ①かきの果実肥大第Ⅰ期後半からⅡ期の降水量が多く、7月と8月の合計降水量が900mm以上の年は松本早生富有の樹上軟熟果の発生が多くなる。また、7月と8月の合計日照時間が300時間以下になると、樹上軟熟果が発生し易くなる（表1、2）。
- ②軟熟果の発生原因はヘタスキ果や炭そ病によるものが多く、その他の原因によるものもわずかにある（表3）。その他の原因による軟熟果の発生と葉中Ca含量との間には明かな関係はみられない（データ略）。
- ③果実第Ⅱ肥大期～成熟期にMGC-82（300倍）を葉面散布すると、ヘタスキによる軟熟果が明らかに減少する（表3）。
- ④松本早生富有及び富有では、着色開始期（9月上旬）にMGC-82（300倍）の葉面散布により収穫後の果実の日持ち性が向上する（図1、2）。

【成果の活用面・留意点】

- ①7～8月の気象経過から、松本早生富有、富有の軟熟果の発生を予測することができる。
- ②ヘタスキの軟熟果の発生が予想される場合には、松本早生富有及び富有を対象に着色開始期までにMGC-82の300倍を葉面散布する。

[具体的データ]

表1 果実肥大期の気象と樹上軟熟果の発生

年	7月		8月		9月		10月		7+8月		軟熟果発生率 %
	降水 mm	日照 h									
S58	540	118	188	210	327	137	118	201	726	326	5.3
S59	67	128	230	228	256	160	30	207	297	356	2.9
S60	209	145	117	248	334	163	145	172	326	393	7.9
S61	527	92	63	236	325	173	37	188	590	328	4.7
S62	514	90	502	145	153	92	114	192	1016	235	13.5
S63	370	108	107	185	71	162	61	212	477	291	11.9
H 1	122	149	186	225	521	148	21	225	308	374	7.5
H 2	181	155	27	259	117	168	109	173	208	414	6.5
H 3	741	73	165	193	160	184	24	189	906	266	14.9
平年	400	116	191	212	230	164	71	199	591	327	

注) ①気象データ：農総試、降水：降水量、日照：日照時間
②品種：松本早生富有

表2 軟熟果発生率と気象要因との相関係数

7月		8月		9月		10月		7+8月	
降水	日照	降水	日照	降水	日照	降水	日照	降水	日照
0.57	-0.56	0.38	-0.72*	-0.49	-0.19	0.01	-0.05	0.63	-0.70*

注) ① * 5%水準で有意
②品種：松本早生富有

表3 MGC-82処理と軟熟果の発生(平成3~4年)

品種	処理	処理日	軟熟果発生率 %	軟熟果の原因			
				へたけ %	炭そ病 %	傷 %	その他 %
H3年 松本早生富有	MGC-82(300倍)	8月2日	2.5	1.6	0.3	0.3	0.3
	無処理		6.8	3.1	1.3	0	2.4
H4年 松本早生富有	MGC-82(300倍)	9月7日	0.8	0.7	0.1	0	0
	無処理		4.6	3.8	0.2	0	0.6
H4年 富有	MGC-82(300倍)	9月7日	0.9	0.9	0	0	0
	無処理		5.4	5.4	0	0	0

注) MGC-82：フルハート

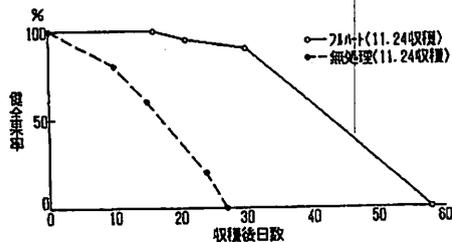


図1 葉面散布剤処理と松本早生富有の収穫後の日持ち(平成4年)

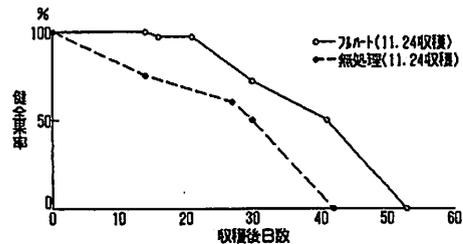


図2 葉面散布剤処理と富有の収穫後の日持ち(平成4年)

[その他]

研究課題名：かきの樹上軟熟果の発生防止

予算区分：経常

研究期間：平成4年度(平成1~4年)

研究担当者：林 公彦、姫野周二、吉永文浩

発表論文等：平成2~4年度園芸研究所果樹部落葉果樹研究室試験成績書